



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤なら

人間を救うのは、人間だ。



わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

県民の皆様には、赤十字事業の推進につきまして、日ごろより格別のご支援ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社では、赤十字の精神である「人道」に基づき、平成23年の東日本大震災や紀伊半島大水害などの災害時における救護活動など、さまざまな活動を展開して参りました。

これらの活動は、資金面で応援して下さる赤十字社員はもとより、赤十字奉仕団、地域の皆様のボランティア活動によって支えられています。

本年も5月を中心に「赤十字社員増強運動」を展開いたしますので、赤十字活動の趣旨をご理解いただき、より多くの方が社員としてご加入くださいますようお願い申し上げます。

活動資金にご協力下さい。

郵便局からのお振込の場合

口座記号番号：00950-9-105293
加入者名義：日本赤十字社奈良県支部

※振込用紙の通信欄には、「活動資金」とご明記ください。

※南都銀行からお振込の場合は、支部へご連絡ください。振込用紙を郵送いたします。

日本赤十字社奈良県支部

〒630-8133
奈良市大安寺1丁目23番2号
TEL：0742-61-5666
FAX：0742-61-5756
<http://www8.ocn.ne.jp/~jrc-nara/>



災害救護活動

災害からいのちを守る

国内において、地震や台風などの災害で被災された方々を救うため、救護班の編成と訓練、防災ボランティアの研修に努めています。また、救援物資の配布や義援金の受付なども行っています。

東日本大震災では、医療救護班や防災ボランティアの派遣、こころのケア活動の実施、また紀伊半島大水害では、救援物資の配布や奉仕団による炊き出しなどを行いました。



訓練の様子



東日本大震災でのこころのケア活動
(岩手県)

紀伊半島大水害で被災された仮設住宅入居者の方々とのふれあい交流

平成25年11月には、平成23年の紀伊半島大水害で被害を受け、仮設住宅でお暮らしの野迫川村の方々をお訪ねし、赤十字ボランティアが用意した昼食後、腹話術や楽器演奏などでふれあい交流のひとつきを過ごしました。



地域奉仕団の昼食準備



ふれあい交流



看護奉仕団の血圧測定・健康相談

救護資機材・救援物資の整備

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、奈良県支部では、救護所用大型テント・災害救護車輻・衛星電話を整備してきましたが、救護班の派遣等に必要な装備品(医療機器・簡易トイレ・非常食など)を平成26年度に整備します。また、市町村に対しても、これまで災害救援車などを配備してきましたが、平成24年度からは3ヶ年計画で、テント・移動炊飯器を配備しています。



↑救護所用
大型テント



↑ワンタッチ
テント



←衛星電話



←移動炊飯器

地域や家庭で防災・減災について考えてみませんか？

東日本大震災などの災害から学んだ知識や教訓を、今後の備えとして多くの方に知っていただくため、「赤十字防災啓発プログラム」を普及しています。

町内や自治会での集まりに積極的に指導員を派遣しています。

(詳しくは、事業推進課までお問い合わせください。)

また、奈良県支部でも体験プログラムを取り入れた災害時要援護者生活支援講習会を実施しています。(右の支部主催講習一覧参照)



青少年赤十字 思いやりを育む

将来をになう児童・生徒が、自ら「気づき・考え・実行する」という生きる力を養うため、先生等の青少年赤十字指導者の協力のもと、学校教育の現場で、豊かな人間性や社会性を育む活動をしています。



3つの実践目標

- 健康・安全
- 奉仕
- 国際理解・親善

加盟校を募集しています！



トレーニングセンターでの体験学習



海外たすけあい街頭募金の様子

国際活動 世界とつながる

世界189の国と地域にある赤十字の一員として、災害や紛争等で苦しむ人々の緊急救援や復興支援を行っています。また、地域保健医療活動にも協力しています。



台風の被害を受けたフィリピンで、子どもたちへ折り紙を使った、こころのケア活動



腕の太さを測って栄養状態を確認しています (ケニア地域保健強化事業)

看護師の養成 国内外で活躍できる看護師を

看護に関する幅広い能力と、救護の専門知識を兼ね備えた実践者を育成するため、大阪赤十字看護専門学校に委託し養成を行っています。奨学金制度も設けています。



3年生の総合技術演習発表

血液事業 献血にご協力を!!

血液センターでは、県内各地で献血をお願いし、24時間体制で安全な血液を安定的に医療機関へ届けています。血液は、長い期間にわたり保存ができないため、絶えず誰かの血液が必要となります。患者さんのもとに安定的に輸血用血液を届けるためにも、献血にご協力をお願いします。



献血基準	成分献血		全血献血	
	血漿	血小板	200mL献血	400mL献血
年齢	男女とも 18歳～69歳	男性 18歳～69歳※ 女性 18歳～54歳	男女とも 16歳～69歳	男性 17歳～69歳※ 女性 18歳～69歳※
体重	男性45kg以上・女性40kg以上		男女とも 50kg以上	

※65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限ります。

献血場所 ■ 奈良県赤十字血液センター 大和郡山市筒井町600-1 TEL.0743-56-5916 <http://www.narakenketsu.jp/>
 ■ 近鉄奈良駅ビル献血ルーム 奈良市東向中町28 近鉄ビル6階 TEL.0742-22-2122



赤十字ボランティア

活動を支える

“赤十字のボランティア活動を通じて、
地域社会を住みよくしよう”



参加者
募集中!!

という気持ちをもった人々の集まりで、年齢や性別は問わず、災害救護や献血の推進、講習会の普及などの赤十字事業の推進をはじめ、地域社会のニーズに応じた幅広い活動に積極的に参加、協力しています。

地域赤十字奉仕団

全体の取組として、地区委員会や研修会の開催、モデル奉仕団活動、ハンセン病施設訪問（岡山県）と里帰り事業への協力などを行っています。また、地域活動では、防災訓練への参加、献血協力の呼びかけ、グリーンアップならキャンペーンへの参加、海外たすけあいの募金活動と受付協力などの活動のほか、老人ホームでの交流や地域での清掃活動などに取り組んでいます。



(上段左) 研修会での“震災体験”講演

(上段中) 三角巾を使った包帯法を学んでいます

(上段右) 海外たすけあい街頭募金

(下段左) 手作りの防災ずきんを園児にプレゼント

(下段右) アンリー・デュナン紙芝居の上演



安全法指導赤十字奉仕団

指導員資格を有し、健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える講習を普及しています。



講習指導の様子

無線・救護赤十字奉仕団

無線の資格を活かし、災害時の情報収集や伝達活動を担うため通信訓練や救護活動を行っています。



イベントでの無線体験

青年赤十字奉仕団

勤労青年や大学生で組織され、献血の呼びかけや青少年赤十字のサポートなどの活動をしています。



近畿大学農学部での学内献血

看護赤十字奉仕団

看護師の資格を有し、公共性の高い行事の臨時救護などの活動を行っており、「奈良マラソン」でも協力しています。

青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字の指導に当たっていた先生で組織され、青少年赤十字を支えています。

赤十字講習会

いざという時に備えて

心肺蘇生やAEDの使用法などを学ぶ救急法をはじめ、いざという時にすぐに役立つさまざまな講習会を実施しています。平成25年度は講習指導員資格を有する安全法指導赤十字奉仕団にご協力いただき、320回開催し、延べ1万1千人の方に受講いただきました。

救急法講習



一次救命処置や急病や骨折など、けがの応急手当などについて学べます。

幼児安全法講習



子どもに起こりやすい事故の予防とその手当などについて学べます。

災害時要援護者生活支援講習



避難所での生活支援の方法・こころのケアについて、また防災・減災のための対応などについて学べます。
(毛布を使った担架搬送)

健康生活支援講習



高齢者との接しかたや介護のしかたなどについて学べます。

水上安全法講習



泳ぎの基本と事故防止、おぼれた人の救助方法などについて学べます。

平成26年度支部主催講習一覧

講習区分		実施日	時間	会場
救急法	基礎講習 ・心肺蘇生やAEDの使い方	6月8日(日)、10月5日(日)	9時30分～15時	支部
		平成27年1月18日(日)		
	基礎・救急員養成講習 ・心肺蘇生やAEDの使い方 ・急病、けがの手当 ・搬送や救護 など	5月18日(日)、24日(土)、25日(日)	未定	奈良市 未定 橿原市 大和郡山市
		8月(3日間実施) 12月(3日間実施) 平成27年3月(3日間実施)		
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習 ・水の事故防止 ・泳ぎの基本と自己保全 など	6月(3日間実施)	9時30分～16時30分	天理市
支援生活	支援員養成講習 ・高齢者の健康と安全 ・日常生活における介護 など	5月10日(土)、11日(日)	9時～17時	支部
		10月18日(土)、19日(日)		
安全法	支援員養成講習 ・子どもに起こりやすい事故の予防と手当 など	平成27年3月18日(水)～20日(金)	9時30分～15時30分	支部
		6月7日(土)、8日(日)	9時～17時	支部
		11月8日(土)、9日(日)		
安全法	災害時要援護者生活支援講習 ・赤十字防災啓発プログラム ・体験プログラム など	5月3日(土)、7月5日(土)	9時30分～15時30分	支部
		平成27年1月17日(土)		
		平成27年3月15日(日)		

※申込方法や教材費等、詳しくはホームページをご覧ください。お問い合わせください。
(日程が未定の講習も日時が決まり次第、ホームページに掲載します。)

赤十字活動にご支援をお願いします

日本赤十字社が国内外で行っているさまざまな人道的活動は、社員^{*1}が納める社費と皆様の寄付金や、ボランティアで支えられています。皆様の温かい善意を心よりお待ちしております。

活動資金となる社費、寄付金、社資とは

社費は、赤十字社員^{*1}として納めてくださるもので、寄付金は、赤十字社員以外の方が支援してくださるものです。社資（活動資金）は、社費と寄付金を総称して呼んでいます。

※1 赤十字社員とは

赤十字社員とは株式会社などの社員という意味ではなく、社団法人の社員又は会員と同様のもので、毎年継続して500円以上を納めてくださる個人社員や法人社員のことを言います。また、赤十字への加入等は、決して強制ではないことをご理解の上、ご支援をお願いいたします。



平成25年度全国赤十字大会

※次回の奈良県赤十字大会は、平成27年度（奈良県支部創立120周年）に予定しております。

活動資金と国内義援金と海外救援金の違い

活動資金 … 災害時の救護、ボランティアの育成、講習会普及事業など赤十字の事業に活用されます。

国内義援金 … 国内の災害で被災された方々に対し、県・市町村を通じて全額（被災者へ）被災者に配分されます。

海外救援金 … 海外の災害や紛争等の被災者に対し、赤十字が行う救援活動（本社へ）や復興支援事業に活用されます。

日本赤十字社の表彰制度

項目	贈与対象内容
支部長表彰状 支部長感謝状	活動資金として、一時または累計で10万円以上を納められた個人・法人等
銀色有功章社員	活動資金として、一時または累計で20万円以上を納められた個人・法人等
金色有功章社員	活動資金として、一時または累計で50万円以上を納められた個人・法人等
日本赤十字社感謝状	金色有功章受章後、更に活動資金として50万円以上を納められた個人・法人等

このほか活動資金にご支援いただく方法として…

近年、遺贈による寄付や相続財産の寄付、香典返しに代えての寄付などでもご支援いただいております。さらに、企業などからは寄付金付自動販売機の設置や赤十字支援マークの使用などのお申し出をいただいております。

※詳細については、奈良県支部のホームページをご覧ください。また、総務課までお問い合わせください。

国の表彰制度

項目	贈与対象内容
厚生労働大臣感謝状	活動資金として100万円以上を納められた個人・300万円以上を納められた法人等
紺綬褒章	活動資金として500万円以上を納められた個人・1,000万円以上を納められた法人等

※これらのご寄付には、相続税や個人の所得税、法人税などの優遇措置が受けられます。

平成 24 年度決算

収入の部	決算額(円)
社資収入（地区区分（市町村）及び支部を通じた個人、法人からの社費、寄付金）	176,412,092
委託金等収入（災害救助法補償収入（東日本大震災））	3,000,913
補助金及び交付金収入（本社の事業振興・財政調整交付金、その他交付金）	10,756,000
雑収入（講師派遣負担金収入、講習用教材費収入等）	7,530,428
前年度繰越金	11,333,836
収入合計	209,033,269

支出の部	決算額(円)
災害救護事業費（災害に備え救護装備費、救助費、救援物資整備費、救護看護師養成費）	16,599,723
社会活動費（救急法等講習普及費、奉仕団及び青少年赤十字育成費、血液事業普及費）	39,573,235
国際活動費（ケニア地域保健強化事業費・近畿共同事業）	1,000,000
指定事業地方振興費（救護資機材費）	3,000,000
地区区分交付金支出（地区区分（市町村）における赤十字活動費）	12,253,509
社業振興費（赤十字思想の普及啓発費、社資募集費、社員管理費、全国赤十字大会参加費）	21,669,545
積立金支出（災害発生に備えた積立金、退職給与資金積立金）	41,606,962
総務管理費（支部の事業管理運営費）	24,755,437
資産取得及び資産管理費（施設管理費）	1,142,378
本社送納金支出（本社における国内・国際活動費）	25,861,813
次期繰越金	21,570,667
支出合計	209,033,269

平成 26 年度予算

収入の部	予算額(円)
社資収入	167,000,000
雑収入	4,400,000
前年度繰越金	10,600,000
収入合計	182,000,000

支出の部	予算額(円)
災害救護事業費	19,380,000
社会活動費	44,980,000
国際活動費	1,040,000
指定事業地方振興費	3,000,000
地区区分交付金支出	16,390,000
社業振興費	25,990,000
積立金支出	18,000,000
総務管理費	25,820,000
資産取得及び資産管理費	1,420,000
本社送納金支出	24,150,000
予備費	1,830,000
支出合計	182,000,000